桝屋グループ少年野球大会規約

◎適用規則

１．　大会はトーナメント方式で決する。

２．　各試合は７回戦または１時間３０分とする。但し、決勝戦に限りコールドゲームなし７回戦または２時間とする。

　　　これは時間を優先し制限時間を超えた場合、新しいイニングに入らない。

　　　ただし勝っているチームが最終回となるイニングの表の攻撃中に制限時間が経過した場合、裏の攻撃終了まで試合を続行する。勝っているチームが後攻の場合、表の攻撃終了後に試合を終了させる。

　　　試合時間は、球審による試合開始のプレイコールを始まりとし、次イニングに入る基準は当該イニングの第３アウトの事実が生じた時に制限時間内の場合とする。

３．　７回終了時または前号の時間経過後の後攻チーム攻撃終了時に同点の場合、タイゲームとする。タイゲームとなった場合は特別延長ルールで勝敗を決する。

４．　特別延長ルールは１イニングとし、無死満塁で前回最終打者の次打者からの攻撃とする。走者は、前回最終打撃完了者を一塁走者として、二塁、三塁の走者は順次前の打者とする。１イニング終了時同点の場合はさらに１イニング行い、なお同点の場合は監督、コーチの抽選により決する。

５．　得点差によるコールドゲームは、４回成立１０点差、５回成立７点差とする。ただし、準決勝については５回成立７点差とする。

６．　雨天および日没によるコールドゲームは４回終了時で試合成立とし、その決定は大会運営本部が行う。

７．　出場チームは試合開始予定３０分前までに監督またはコーチが大会運営本部にて出場申告を行い、メンバー表３部を提出して登録選手名簿との照合を受けること。選手の追加登録は出場申告するまでは可能とする。

８．　各チームの主将は、試合開始時間の概ね１５分前に審判員立会いのもとでジャンケンにより攻守を決定する。

９．　ベンチは、組み合わせの小さいチームを１塁側とする。

１０．ベンチ内に入ることのできる人員は、ユニフォームを着用した選手２５人と監督、コーチ２名、及び自チームの帽子を着用したチーム責任者、スコアラー各1名とする。

１１．タイム制限に関して、監督が作戦のため指示を与える回数は守備側、攻撃側共に１試合（７イニング）につき３回までとする。同一イニングにグラウンドに出て２度目の指示を与える場合、投手交代になる。ただし、その時はタイムの回数に数えない。

　　　特別延長時は、それ以前の回数に関係なく守備側、攻撃側共に２イニングに１回とする。

野手については、２人以上の野手が投手のもとへ行ける回数を３回までとする。

特別延長時は、それ以前の回数に関係なく１イニングに１回とする。

１２．不正投球は、明らかな場合は直ちにボークとし、紛らわしい行為について１度目は注意、指導を行い、同試合に同じ行為を繰り返した場合はボークとする。

１３．変化球は一切禁止する。ただし、１回目は注意を行い、以降明らかに変化球と見なされた場合はすべてボールと判定する。

１４．投手の投球数及び投球回数制限は、本大会において各チームの努力義務とする。

１５．投手による準備投球は、初回７球、イニング間３球、投手交代時は５球とする。

１６．申告敬遠を認める。

１７．審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は監督

からのみ認める。また、判定に対する抗議は認めないことについては、チーム全員に

徹底して指導しておくこと。

１８．用具、装具等は、（公財）全日本軟式野球連盟規程細則第１２条に定められたもの以外

は使用できない。

１９．それぞれのグラウンドによるルールは、大会運営本部が決定する。

２０．この適用規則に定めのない事項は、本年度公認野球規則及び全日本軟式野球連盟競技

者必携に準ずることとする。

２１．その他重要事項

　　・球場内外問わずマナーには留意し、試合中の言動には特に慎むこと。

　　・相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は禁止とし、特に選手個人に対する野次

　　　は厳禁とする。応援者の悪質な行為や野次もチームとしての責任を負うものとする。

　　・鳴り物入りの応援は禁止とし、ベンチ内においても同様とする。ただし、メガホンは監督が選手に指示するときのみ１つ使用を認める。

　　・ネクストバッターズサークル内の次打者は、危険防止のため、低い姿勢で待機すること。

　　・スポーツマンシップにのっとり正々堂々と全力を尽くして競技を行うこと。

　　・大会運営本部の指示に従わないときには、退場していただく場合がある。

　　・当グラウンド及び福生市営球場は全面禁煙になります。ご来場いただく皆様のご協力をお願い致します。